

## 講師プロフィール

### 井上 摩耶子(いのうえ まやこ) ◆ ウィメンズカウンセリング京都代表

同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。心身障がい児通園施設、高等学校での心理カウンセラー、大学講師を経て、1995年9月より「ウィメンズカウンセリング京都」代表。カウンセリング、サポートグループ活動とともに、性暴力・DV被害者のための法廷での代弁・擁護活動に取り組む。日本フェミニストカウンセリング学会認定フェミニストカウンセラー。現在、NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会代表。

### 岩井 圭司(いわい けいじ) ◆ 兵庫教育大学大学院教授・精神科医師

神戸大学医学部卒業後、兵庫県立光風病院などを経て、阪神・淡路大震災後に設立された被災者援助機関「こころのケアセンター」に勤務。専門領域は、災害心理学、精神的被害の精神鑑定、統合失調症の精神病理学。著書に『PTSD』(共著、星和書店、2004年)、『大災害と子どものストレス』(共著、誠信書房2011年)、『復興と支援の災害心理学』(共著、福村出版、2012年)など。

### 中塚 幹也(なかつか みきや) ◆ 岡山大学大学院保健研究科教授・岡山大学ジェンダークリニック医師・GID(性同一性障害)学会理事長

1991年～日本産婦人科学会認定医。98年～岡山大学医学部ジェンダークリニック。04年～岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」。05年～GID(性同一性障害)学会理事。10年～GID(性同一性障害)学会理事長。11年～岡山県青少年健全育成促進アドバイザー。12年～日本産婦人科医会母子保健委員会委員。13年～日本産婦人科学会代議員。

### 加藤 治子(かとう はるこ) ◆ 阪南中央病院・はるウィメンズクリニック産婦人科医師・性暴力救援センター・大阪(SACHICO)代表

阪南中央病院産婦人科医師。早くから「女性の一生を生活背景も含めて診ることのできる科」を目指す。DVや性的虐待に関心を持ち、支援にかかわってきた。2004年から大阪市阿倍野区のウィメンズセンター大阪内に「はるウィメンズクリニック」を開設。2010年4月からは「性暴力救援センター・大阪SACHICO」の代表もつとめている。

### 長谷川 京子(はせがわ きょうこ) ◆ みのり法律事務所 弁護士

弁護士。専門分野は「女性問題と法律」。内閣府・女性に対する暴力対策情報提供事業研究会委員、日弁連ハーグ条約WG委員などを歴任。現在、日本DV防止・情報センター運営委員、ジェンダー法学会理事、日弁連両性の平等に関する委員会副委員長、兵庫被害者支援センター理事、神戸市男女共同参画審議会委員を務める。

### 伊田 久美子(いだ くみこ) ◆ 大阪府立大学大学院人間社会学研究科教授。同女性学研究センター所長

京都大学大学院博士後期課程修了。京都大学助手を経て2000年より大阪女子大学助教授。2002年同大学教授、2005年より現職。専門はジェンダー論、イタリア・フェミニズム研究。訳書に『ジョヴァンナ・フランカ・ダラ・コスタ『愛の労働』』1991年他。近著に「女性の貧困はなぜ見えないのかー再生産労働概念からの再検討」『現代思想』2012年11月号他

### 平尾 一乃(ひらお かずの) ◆ 社会福祉法人 宏量福祉会 野菊荘

短大卒業後、一般企業に入社。その後高齢者福祉分野での介護職、相談員、介護支援専門員を経て、2007年に母子生活支援施設野菊荘に入職。就労しながら、社会福祉士、精神保健福祉士資格を取得した。2011年4月より野菊荘が業務受託した京都市DV相談支援センターにて、開所準備より携わり、相談支援員として勤務。相談者が自分らしく生活できるように寄り添った支援を行うよう心がけている。

### 川喜田 好恵(かわきた よしえ) ◆ 日本フェミニストカウンセラー協会代表理事

組織開発、人間関係トレーニングなどに関わった後、米国の大学院でカウンセリングを学ぶ。帰国後、1981年より大阪府立婦人会館カウンセラー、大学講師などを経て、ドーンセンター設立当初から2009年3月まで相談担当コーディネーター。現在は日本DV防止・情報センター運営委員、聖心女子大学院でのフェミニストカウンセリング講師などを務めながら、講演活動をおこなう。

# 2013 フェミニストカウンセリング 専門講座

女性の自立とエンパワメントのための心理的援助を行うために必要な知識と技術を提供する専門講座を開催します。  
<理論コース>では、フェミニストカウンセリングの中でも重要なテーマを取り上げ、女性のおかれている状況やそこからくる心理的問題を考えるとともに、ジェンダーに敏感な視点がなければ適切に対応できないDV・性暴力サバイバーへのサポートのあり方を学びます。  
<研究コース>では、現場での実際のケースに沿いながら、フェミニストカウンセリングでのとらえ方、アプローチや対応の仕方などについてスーパーバイザーとともに検討、援助職としての資質と専門性の向上をめざします。

会場 **ドーンセンター** (大阪府立男女共同参画・青少年センター) 【理論コース】 大会議室3(5F)・特別会議室(5F)・視聴覚スタジオ(5F)・大会議室1(4F) 【研究コース】 中会議室1・2・3(4F)・小会議室5(4F)・多目的ルーム(地下)

2013 11/3(日) - 12/1(日) 10:30~13:00  
14:00~16:30

4日間全8回

## 理論コース

- 対象：①女性を対象とした相談事業や、メンタルヘルスに関する事業に関わっている方  
②カウンセリングの基礎知識があり、フェミニズムの視点にたった女性への心理的援助に関心のある方
- 定員：50人程度(「受講申込書」により選考を行います)
- 受講料：全回20,000円 各回3,000円(当財団個人賛助会員10%割引)
- 申込み：Eメール、FAX、または郵送で。(宛先は最後のページ)  
選考結果通知を郵送希望の方は、返信封筒(返信用切手貼付、宛名明記)を同封のこと。  
受講申込書は財団HPからもダウンロードできます。
- 締切り：2013年10月27日(日)

2014 1/18(土) - 2/22(土) 10:30~16:30

3日間全6回

## 研究コース

- 対象：①本講座の理論コースを修了している方\*過去5年(2008年度以降)開催分  
②相談員・カウンセラー、ケースワーカーなど援助の現場を持っている方  
③上記に該当し、原則全回参加できる方
- 定員：各グループ15人 計30人程度(「受講申込書」により選考を行います)
- 受講料：20,000円(当財団個人賛助会員価格18,000円)
- 申込み：Eメール、FAX、または郵送で。(宛先は最後のページ)  
選考結果通知を郵送希望の方は、返信封筒(返信用切手貼付、宛名明記)を同封のこと。  
受講申込書は財団HPからもダウンロードできます。
- 締切り：2013年12月7日(土)必着

### お申込・お問合わせ先

一般財団法人 大阪府男女共同参画推進財団事務局  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49  
ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)  
TEL:06-6910-8615 / FAX:06-6910-8624  
E-mail:jigyo@dawncenter.or.jp  
URL:http://www.ogef.jp/

※大阪地下鉄谷町線(天満橋)駅 1番出口から東へ350m  
※京阪西線(大阪城北站)駅 2号出入口から西へ550m  
※市バス(京阪東口)から徒歩



# 理論コース

I フェミニストカウンセリング全般に対する理解を深め、女性のおかれている状況やそこからくる心理的問題について考える

II フェミニストカウンセリングの中でも重要なテーマを取り上げ、現状・サポートについて学ぶ

\*理論コース全8回中6回以上の出席で修了証を発行。研究コースを受講できます。

III 性暴力・DV被害者の実態とサポートの実践に学ぶ

IV 暴力被害を受けた女性たちのアドボカシー(代弁・擁護)とフェミニストカウンセリングの役割を考える

	開催日/会場	時間	テーマ/内容	講師
1	11月3日(日) 大会議室3(5F)	10:30~ 13:00	フェミニストカウンセリングとは ~カウンセリングにジェンダーの視点を~ ----- フェミニストカウンセリングがなぜ必要か、その基本的な考え方を理解し、支援に当たる姿勢とスキルを学ぶ。	井上 摩耶子 (株)ウィメンズカウンセリング 京都 代表
2		14:00~ 16:30	暴力被害とPTSD ~トラウマを持つ女性・子どもへの臨床的サポート~ ----- 暴力被害により、トラウマを持つ女性や子どもをどうサポートするか、精神科医から見たトラウマ回復支援を通して、被害者支援の本質を考える。	岩井 圭司 兵庫教育大学大学院教授・ 精神科医師
3	11月9日(土) 特別会議室(5F)	10:30~ 13:00	「多様な性」を支える臨床現場から ~性同一性障がいの治療と生活の総合的支援~ ----- 精神神経科・産科婦人科・泌尿器科・形成外科の専門医が協力して、性同一性障がいの総合的診療をめざすジェンダークリニックでの支援の現状を聞く。	中塚 幹也 岡山大学大学院保健研究科教授 ・岡山大学ジェンダークリニック 医師・GID(性同一性障害)学 会理事長
4		14:00~ 16:30	性暴力・DV被害者への急性期医療 ~被害者の心身のケアとワンストップセンター~ ----- 被害者へのトータルな支援のために急性期医療の現場では何ができるのか。「性暴力支援センター・大阪(SACHICO)」の取り組みの現状と課題に学ぶ。	加藤 治子 阪南中央病院・ はるウィメンズクリニック 産婦人科医師 性暴力支援センター・大阪 (SACHICO) 代表

	開催日/会場	時間	テーマ/内容	講師
5	11月16日(土) 視聴覚スタジオ (5F)	10:30~ 13:00	法と司法に潜むジェンダー ~女性の暴力被害者への法的支援の取り組みと課題~ ----- 法律は性暴力(性的虐待を含む)被害者をどこまで支援できるか。法的支援の取り組みと課題を学ぶ。	長谷川 京子 みのり法律事務所 弁護士
6		14:00~ 16:30	女性の貧困と就労の実態 ~今 労働の場から見える課題と支援~ ----- 女性は全年齢層で相対的貧困率が男性よりも高く、それが母子家庭の子どもの貧困にも繋がっている。女性の就労の実態を把握し、支援に役立てる。	伊田 久美子 大阪府立大学大学院人間社会学 研究科教授。同女性学研究セン ター所長
7	12月1日(日) 大会議室1(4F)	10:30~ 13:00	自立支援に向けての取り組み ~DV被害者の相談支援の現場から~ ----- 相談者に寄り添うとはどういうことか、DV被害者の相談支援を通して見えてくる実態と課題を考える。	平尾 一乃 社会福祉法人 宏量福祉会 野菊荘
8		14:00~ 16:30	女性をエンパワメントするために ~フェミニストカウンセラーの役割~ ----- フェミニストカウンセリングの意義とフェミニストカウンセラーの果たすべき役割と課題を考える。	川喜田 好恵 日本フェミニストカウンセラー協会 代表理事

## 研究コース

相談の現場では、さまざまな課題に直面し「どのように理解したらいいのか?」「自分の対応はこれでいいのか?」と迷いや悩みが生じます。臨床に基づいた研修の機会には、よりよい相談を行うためにも、援助者が燃え尽きることなく仕事を継続するためにも必要不可欠です。

研究コースでは、理論コースを修了した方(\*)を対象に、グループに分かれて話し合いを組み入れながら、ケースの見方や具体的な対応についてスーパーバイザーとともに検討します。経験や知識の共有など実践に役立つ内容です。

(\*) 過去5年(2008年度以降)開催分修了者

	開催日	時間	スーパーバイザー	主な対象	会場
A	1月18日(土) 1月25日(土) 2月22日(土)	10:30~ 16:30	井上 摩耶子 (株)ウィメンズカウンセリング 京都 代表	福祉・医療・シェルターなど ケースワーク的関わりを 必要とする現場を持つ方	ドーンセンター 中会議室1・2・3(4F) 小会議室5(4F) 多目的ルーム(地下)
B	1月25日(土) 2月8日(土) 2月22日(土)	10:30~ 16:30	川喜田 好恵 日本フェミニストカウンセラー協会 代表理事	女性関連施設、行政、教育 機関など公的な機関で相談 の現場を持つ方	ドーンセンター 中会議室1・2・3(4F) 小会議室5(4F) 多目的ルーム(地下)

各グループとも応募が8名以下の場合には不成立となります。

研究  
コースへ

STEP  
UP!